



与野本町小だより

～かしこい子 心ゆたかな子 たくましい子 助け合う子～
ニコニコ・しっかり・美しく（本町の心）

7月号

令和7年6月30日

さいたま市立与野本町小学校

ハイタッチ

校長 小野圭司

6月3日（火）のお話朝会で子どもたちに呼び掛けました。「ハイタッチをしませんか」と。

このような呼び掛けをしたきっかけは、5月26日（月）に開催された第1回学校運営協議会の熟議において、あいさつが話題となり、ある委員の方から「相手との距離感が縮まるハイタッチをするのもよいのではないか」という意見があったためです。

お話朝会が終わり、体育館の出口でいつものように「おはようございます」のあいさつを子どもたちにしていると、途中から私とのハイタッチに変わっていきました。高学年が先に体育館から出るので、その途中からだったと思いますが、最後の学年まで多くの子どもたちとハイタッチをしました。

確かに、相手との距離感が縮まる感じを受けました。いつもは少し離れた場所であいさつを交わしていた子が、近づいてきて手と手を合わせます。目と目を合わせることに慣れてきた子たちなので、手を合わせながら目も合わせてくれます。中には、思いきり私の手をたたき、優しくタッチする子、前の子がタッチするまで順番を待ってタッチする子など、子どもたちのやり方は様々です。

このハイタッチは、5月のお話朝会で話題とした「よいあいさつ」を具現化しているのではないかと考えています。その時、その場所、その時の様子に合わせたあいさつが「よいあいさつ」ではないかと伝えましたので、このハイタッチについても、その時、その場所、その時の様子に合わせた「よいあいさつ」の一つであると捉えています。

しかし、ハイタッチの難しさも感じています。子どもたちの中にはハイタッチではなく、いわゆる普通のあいさつをする子もいます。その子に対して私が手を上げてハイタッチのポーズをとると私に合わせてハイタッチをするため、その子の意に沿わないあいさつになっているのではないかと考えますが、いかがでしょうか。私自身、相手がハイタッチをしてくれないと、上げた手のやり場に困る場面がありますし、相手の子にとっても「校長先生がハイタッチしようとしていたのにしなかったのでバツが悪い」と感じたのではないかと気の毒になります。あいさつの仕方は人それぞれで「正解」はないと思いますが、その時、その場で、その時の様子の「最適解」のあいさつをしてくれることを期待します。そのうちの 하나가、今回話題とした「ハイタッチ」です。

「ハイタッチ」をすると、素直に、心地よく嬉しい気持ちになります。今後は、子どもたちどうして「ハイタッチ」、子どもたちと保護者・地域の皆様で「ハイタッチ」、保護者・地域の皆様と教職員で「ハイタッチ」など、「ハイタッチ」の輪が広がっていくといいなと思っていますが、いかがでしょうか。しかし、「ハイタッチ」を無理強いせず、あくまで「よいあいさつ」の一つとして取り組んでいきたいと思っています。

学校生活（ブログ）は6月2日（月）以降、19の記事を追加しています。ぜひご覧ください。